

牧本次生

日本半導体歴史館 館長

<学歴・職歴>

1959年東京大学工学部卒業、66年スタンフォード大学電気工学科修士、71年東京大学工学博士、97年IEEEフェロー。

1959年日立製作所入社後一貫して半導体の道を歩む。92年半導体事業部長、97年専務取締役、2000年退社。同年、執行役員専務としてソニー入社、01年顧問、05年退社。現在日本マイクロニクス(株)顧問、半導体産業人協会特別顧問、日本半導体歴史館館長

<特記事項>

- ① 半導体産業における標準化とカスタム化のサイクル現象はエレクトロニクス・ウイークリー紙(英)によって「牧本ウエーブ」と名付けられた(91年)。
- ② 96年の日米半導体交渉において日本半導体業界を代表して交渉に当たり、日米半導体協定の終結と世界半導体会議(WSC)の設立を主導
- ③ 97年に”Digital Nomad”を出版(共著)、新しいライフスタイルの出現を予想
- ④ 06年に「一国の盛衰は半導体にある」を出版、日本半導体の状況に対して警鐘
- ⑤ 21年に「日本半導体復権への道」を出版、日本の進むべき方向を提言

<主な受賞> 73年市村賞(LSIのCADシステムの実用化)、79年IR100賞(高速 CMOS4 KビットSRAM開発)、04年ベルウエザー賞(半導体産業における顕著な業績と貢献に対して)、07年エレクトロニクス実装学会功績賞、13年グローバルIT賞(アルメニア大統領より、IT分野における世界的な貢献に対して)、18年IEEEロバート・ノイス賞(CMOSメモリ・マイクロプロセッサにおける指導的役割に対して)

<おもな著書> : 96年「デジタル革命」(日経BP社)、97年“Digital Nomad”(John Wiley)、98年「デジタル遊牧民」(工業調査会)、06年「一国の盛衰は半導体にある」(工業調査会)、15年「IT立国アルメニア」(東京図書)、21年「日本半導体復権への道」(年筑摩書房)

以上